



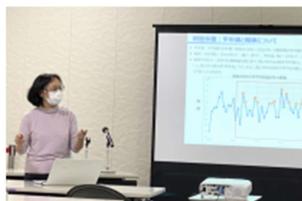
「福島県地球温暖化防止活動推進員の会」(県北地区)活動報告

令和7年12月15日に福島市内のアオウゼで今年度第2回目の研修会を開催し、11名が参加しました。今回はその研修内容をご紹介します。

「福島県の気象特性と今後の気象の見通しと備え」

福島地方気象台調査官 桜井美菜子さん

福島地方気象台桜井調査官を講師に招き、福島県の気象特性など6項目にわたり詳細なデータに基づく講演をいただきました。



桜井さんの講演の様子

① 福島の地形と四季の特徴と最近の福島県の災害から

福島県の地形的な特徴とそれに関連する気象災害について解説がありました。福島県は予報区で用いられている会津・中通り・浜通りの「川」の字の地形と表現されることが多いですが、司馬遼太郎氏は「列」の字と述べており、「列」と捉えることで南会津地方の高地の存在が見えてくるとの指摘がありました。また、地形と関係した気象災害事例として、以下が紹介されました。

【2021年4月に発生した福島盆地の霜害】

阿武隈川に沿う低地で冷氣(重い空気)が収束したことと、温暖化による早期の果樹の開花が合わさって27億7千万円の大きな被害が発生

【2019年10月の台風19号による阿武隈川洪水】

阿武隈川が北に向かって流下しているため、台風の北上と重なり、河川水が下流で集積して氾

濫しやすい仕組みとなっている。

このほか、強雨をもたらす線状降水帯による2022年8月の会津地方の濁川の氾濫や2023年9月の浜通りいわき市の洪水など、地形に依存する多くの事例の解析結果が紹介されました。

② 観測データからいえること

「平年値」の概念について、詳細な説明があり、2025年の夏の高温や地球温暖化について解析結果が紹介されました。図1は福島気象台で観測された1890年から2025年までの最高気温・平均気温・最低気温の年平均値を示したものです。

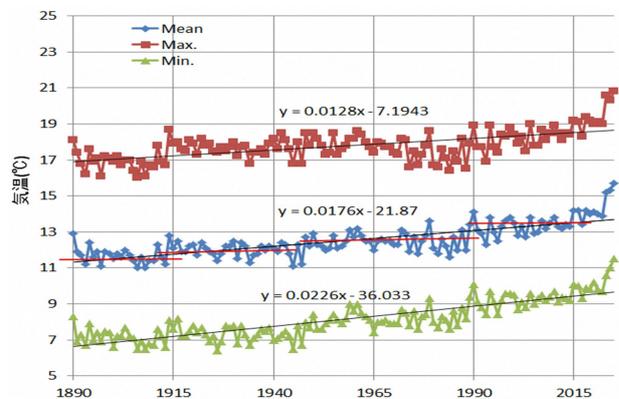


図1 福島地方気象台で観測された最高気温(赤)平均気温(青)最低気温(緑)の年平均値の推移

直線で回帰するとその傾きは、1年ごとの気温上昇率になります。100年間の気温上昇率は最高気温で+1.28℃、平均気温で+1.76℃、最低気温で+2.26℃と、最低気温の上昇率が最も大きいことが特徴です。温室効果ガスの増加で放射冷却量が減少し、最低気温が下がりにくくなることは理解できますが、観測地点や観測期間によって上昇率が異なる傾向を示すので注意する必要があります。また、2023年からの突出した高

温は「気候ジャンプ」として捉えられるとの指摘もあり、福島气象台での観測では、図中の赤線で示したような階段状の昇温を確認することができます。2023年からの昇温量を同様な現象とするには大き過ぎますが、これまでのステップ状の気温上昇が海面温度と関係していることから考えると、海洋熱波などと関係している可能性も示唆されます。

③ 異常気象分析検討会

今年7月の記録的な高温と少雨について異常気象分析検討会資料を基に説明がありました。図2は異常気象分析検討会資料の一つで、7月の大気循環場の特徴を示したものです。赤色点線は

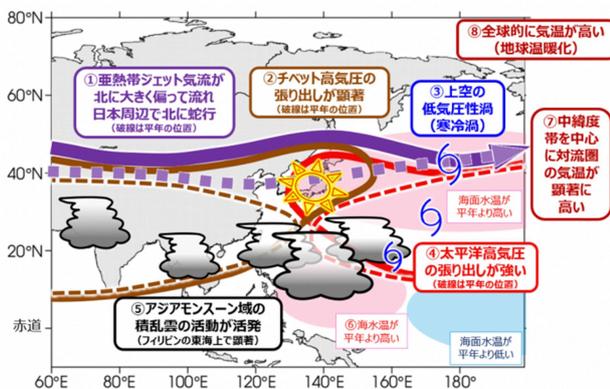


図2 2025年7月の大気循環場の特徴

平年の太平洋高気圧の張り出し状況、茶色点線は平年のチベット高気圧の張り出し状況を示しています。今年はそれぞれ実線のように張り出し、日本上空で両者が重なった結果、大気全層で高気圧場となり、下降流場が形成されました。そのため好天が続き、降水量も少なくなりました。また、これらの高気圧はインド洋やフィリピン付近の海面温度が高く、対流活動が活発化したことに伴い、その対流活動の下降流場として形成されたこと、さらに、この高気圧場が亜熱帯ジェットを北上させていたことも高温少雨の要因となったと説明されました。図3はその結果の一つとして、猛暑日（最高気温が35℃以上）と40℃以上の日の発生地点数積算（日々の発生地点を積算した値）の推移を示したものです。ここ3年間の発生数が急増していることが示されています。

④ 地球温暖化の影響

こうした気温変化や降水量の増減が地球温暖化



図3 最高気温が35℃（猛暑日）、40℃以上の日の地点数積算の推移

の影響かどうかについては、イベントアトリビュション（Event Attribution）という手法により検証されていることが紹介されました。これは、温暖化が起きていないと考えられるデータセットと、実際の観測データセットで大気モデルによる数値実験を行い、比較することで温暖化の影響を調べる手法です。

そのほか、「⑤日本の気候変動2025」については、気象庁ウェブサイト (<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>) で参照可能なことが紹介されました。また、「⑥おわりに」では温暖化防止活動の重要性が指摘されました。

「ミライ地球ガチャ」

福島県環境共生課主事 吉田 開さん

福島県環境共生課の吉田さんから、LetterNO.55で報告した「ミライ地球ガチャ」による活動の回答をまとめた報告がありました。



吉田さんの講演の様子

①夏は40℃以上の暑い日が当たり前になったらどうする？（図4）

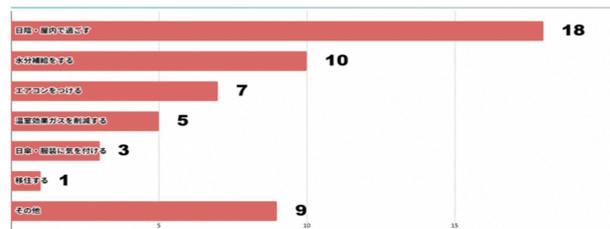


図4 夏は40℃以上の暑い日が当たり前になったらどうする？への回答

最も多かった回答が「日陰・室内で過ごす」、次

いで「水分を補給する」、「エアコンをつける」となっており、「温室効果ガスを削減する」という対策については全体の11%程度の回答に留まっており、比較的個人的な対処行動の回答が多く寄せられました。

②野菜も暑くて元気がなくなったら、どうする？(図5)

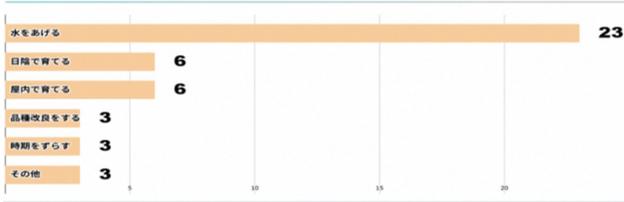


図5 野菜も暑くて元気がなくなったら、どうする？への回答

「水をあげる」、「日陰で育てる」、「室内で育てる」などの回答が多い一方、「品種改良する」や「時期をずらす」など適応策について理解されている回答も寄せられました。

③暑くてリンゴが日焼けして茶色になったら、どうする？(図6)

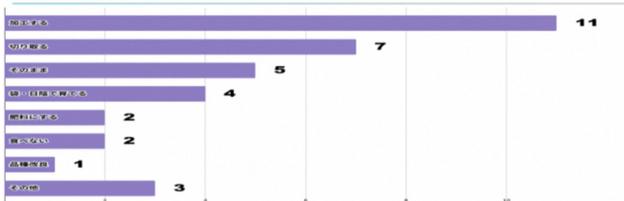


図6 暑くてリンゴが日焼けして茶色になったら、どうする？への回答

「加工する」、「切り取る」、「そのまま」などの回答が多く、「袋・日陰で育てる」「品種改良」など適応策の回答もありました。また、「肥料にする」や「食べない」など処理方法についての回答もありました。

④このままじゃ地球がどんどん暑くなる！地球温暖化を止めるには、どうする？(図7)

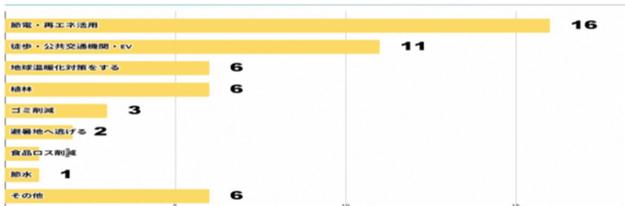


図7 このままじゃ地球がどんどん暑くなる！地球温暖化を止めるには、どうする？への回答

「節電・再エネ活用」、「徒歩・公共交通機関・EV利用」などの省エネ行動のほか、「植林」、「ゴ

ミ削減」、「食品ロス削減」などの適応策についての回答も寄せられ、温暖化防止については理解が進んでいることが分かりました。

⑤暑さで国産のおいしいお米が食べられなくなったら、どうする？(図8)

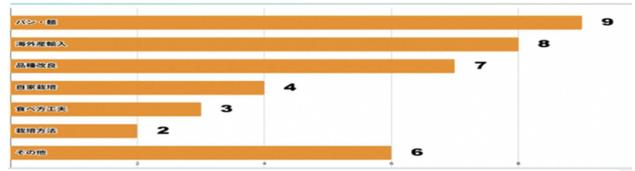


図8 暑さで国産のおいしいお米が食べられなくなったら、どうする？への回答

「パン・麺」、「海外産輸入」など対処法の回答のほか、「品種改良」「栽培方法」など適応方法についての回答も寄せられました。

⑥毎年のように大きな台風がやってきたら、どうする？(図9)

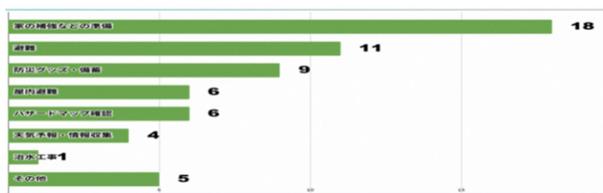


図9 毎年のように大きな台風がやってきたら、どうする？への回答

「家の補強」、「治水工事」などの対策の回答のほか、「避難」、「屋内退避」、「防災グッズ・準備」、「ハザードマップ確認」、「天気予報・情報収集」などの対策についての回答もあり、気象災害に対する理解が進んでいる様子うかがえました。

⑦川があふれるような大雨が降るようになったら、どうする？(図10)

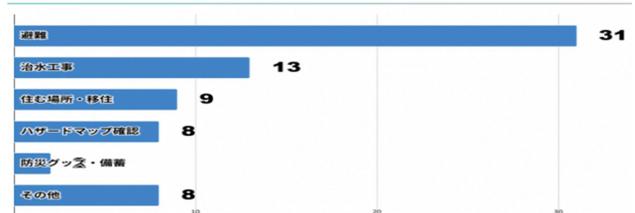


図10 川があふれるような大雨が降るようになったら、どうする？への回答

「避難」、「ハザードマップ確認」などの回答のほか、「治水工事」や「移住」などの対策に対する回答も寄せられ、地球温暖化やそれに対する災害などについて理解が進んでいる一方、単に対策の回答をした参加者もあり、質問内容の検討を進める必要があります。